

NEWS RELEASE

第42回 観光の実態と志向調査 結果

公益社団法人日本観光振興協会（本部：東京都港区 会長 山西 健一郎）は、過去1年間の国民の宿泊観光旅行の実態と今後の希望についての調査である「観光の実態と志向」調査を今年度も実施しました。

●国内宿泊観光旅行への参加、希望ともに増加もコロナ禍前を上回らず

令和4年度における国内宿泊観光旅行の参加率は、令和3年度からは増加するも、コロナ禍前の実績まで、未だ戻っていない状況となっています。

また、今後1年間の参加希望率は、令和元年度の水準にまでは戻るものの、それ以前から続く参加希望率の減少傾向を覆すまでには至っていません。

参加率、参加希望率ともに増加に転じるも、コロナ禍からの反動や円安、情勢不安による海外旅行からのシフト等から期待されている国内観光旅行の拡大を示すまでの結果とはなりませんでした。

しかしながら、10代において、参加率の伸び幅は大きく、参加希望率はコロナ禍前の数値を上回るなど、今後の国内宿泊観光旅行に対する明るい兆しもみられる結果となっています。

図1 国内宿泊観光旅行の参加率の推移

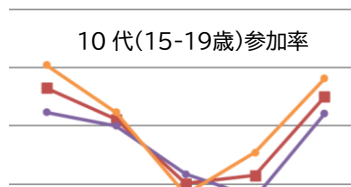
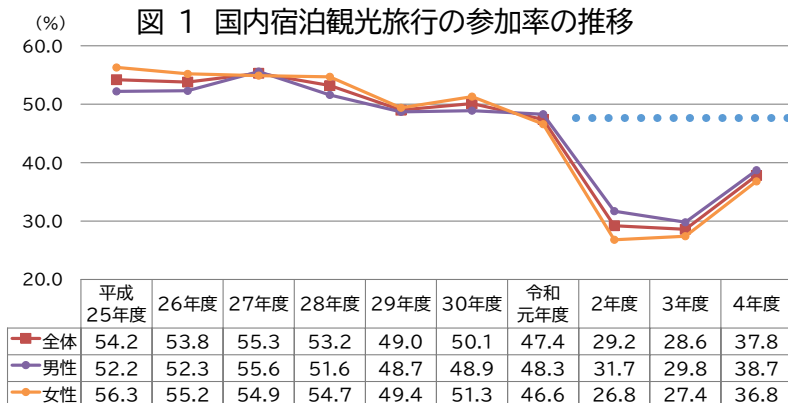
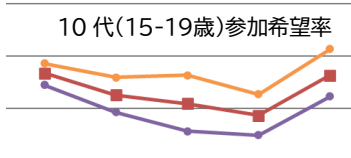
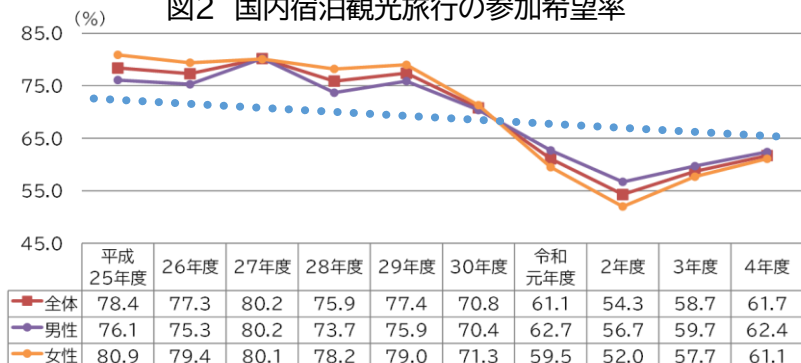


図2 国内宿泊観光旅行の参加希望率



●旅行先での非対面型サービス（宿のチェックイン・アウト、切符・チケットの購入、飲食店での決済等）は若年層で浸透。その一方で10代では旅行先での交流にも積極的

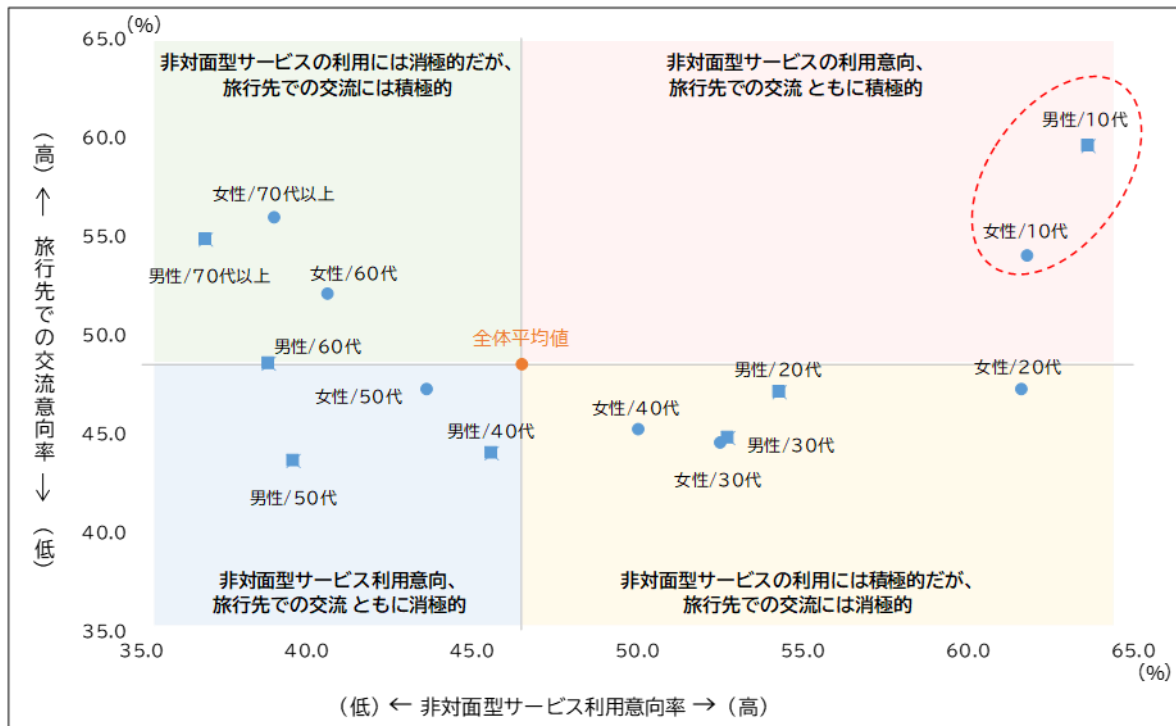
今年度は、「コロナ禍を経てのこれからの観光」をテーマに、旅行先での非対面型サービスの利用意向や旅行先での地元の方との交流意向なども特別に調査しています。

コロナ禍により進展した旅行先でのチケット購入や決済などの非対面型サービスの利用については、年代が若いほど高い利用意向を持っており、若年層からのサービスの浸透がうかがえます。

一方で、訪れた地域の方との交流に対する意向としては、10代、70代以上で高い結果となっています。

10代の旅行者においては、人と直接関わらない非対面型サービスを当然のものとして利用する一方、地域の人との交流、ふれあいを積極的に求めているといえます。

図3 性・年代別非対面型サービスの利用意向×旅行先における地元の方との交流意向



※結果の詳細及び調査概要は

<https://www.nihon-kankou.or.jp/home/userfiles/files/autoupload/2023/08/1691027166.pdf> に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

なお、本調査の報告書は令和5年9月末発行を予定しています。

<お問い合わせ先>

公益社団法人 日本観光振興協会 総合調査研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-1-1 虎の門三丁目ビルディング 6階

TEL : 03-6435-8333 E-mail : soken@nihon-kankou.or.jp